

海外展開のスズメ

海外事情編

韓国の日本酒市場

国際センター
とっぴビジネス

米子鬼太郎空港からひとつ飛び。山陰で一番身近な外国は「韓国」です。今回の「海外展開のスズメ」は、とっとり国際ビジネスセンターの許福美「コーディネーター」(韓国担当)に、韓国の日本酒市場について伺いました。

「日本酒が韓国の若者に人気ですね。」

「近年の健康意識の高まりから、アルコール度数の低い飲料が好まれる傾向があります。日本酒は韓国焼酎などに比べ、低アルコールで、その点でぴったり。」

また、日本酒の豊富なバリエーションから味の選択を楽しみ、更に日本の文化や伝統に触れる、その一環として日本酒が親しまれています。」

「この傾向は、これからも続くのですか。」

「韓国のアルコール販

売関係者は「最近、ワイン、ウイスキーに続いて日本酒の販売が拡大していて、この人気は当分続くだろう」と話しています。「今後、伝統的な銘柄から新しいスタイルのものまで、日本酒の美味しさをアピールしたい」と日本酒の取り扱いに積極的です。」

「とっとり国際ビジネスセンターの今後の取り組みは。」

「当センターでも、鳥

取の日本酒を韓国市場に積極的に売り込んでいます。7月には、韓国で最大の酒類展示販売会でも紹介する予定です。これ



韓国の居酒屋で行われた鳥取県の日本酒販売会写真はこちら

により、県産日本酒の魅力が広まることを期待しています。」

インタビューを終えて

先日、ある韓国企業の社長がソウルの日本料理店で、なんとなく日本酒のボトルを手に取り、ラベルを見てみると、なんとそれは鳥取県の酒。「千代むすび酒造のお酒だ!」と声を上げたそうです。

鳥取通の社長は、この偶然の出会いをまさに運命だと感じたとのこと。こうした出会いが、また一つの縁を紡ぎ出すきっかけとなるかもしれません。